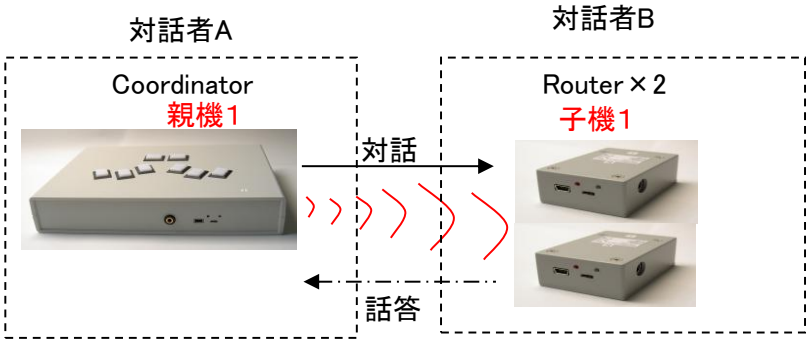
無線式体表点字会議システム検討

20130217 I_Labo

盲ろう者同士または健常者と盲ろう者が相互に対話することが可能な装置。
1）片方向対話
2）双方向対話
3）グループ対話（3人～）

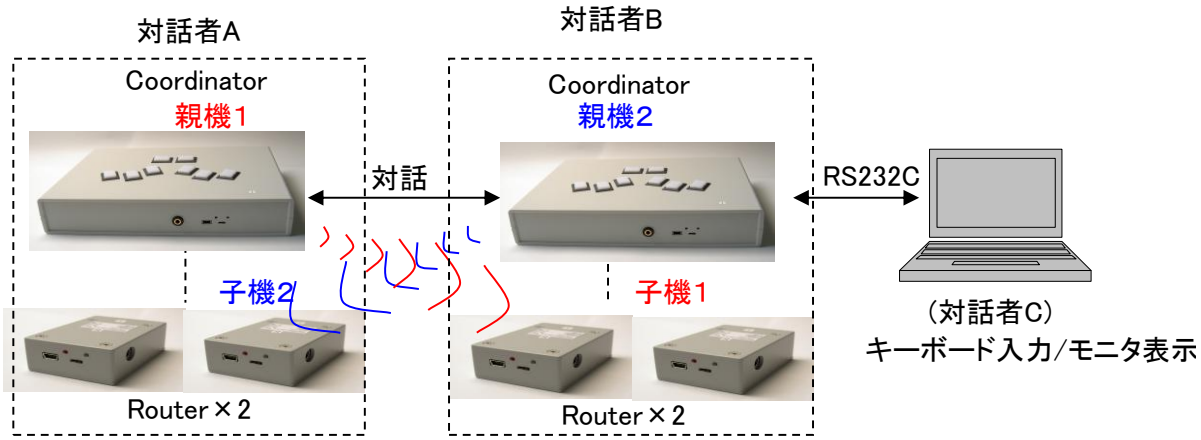
構成

1） 1式を用いた片方対話システム。



対話者Aは親機1より6点点字入力情報を無線通信で送信し、対話者Bに子機1側で受信した情報を体表点字で伝える。

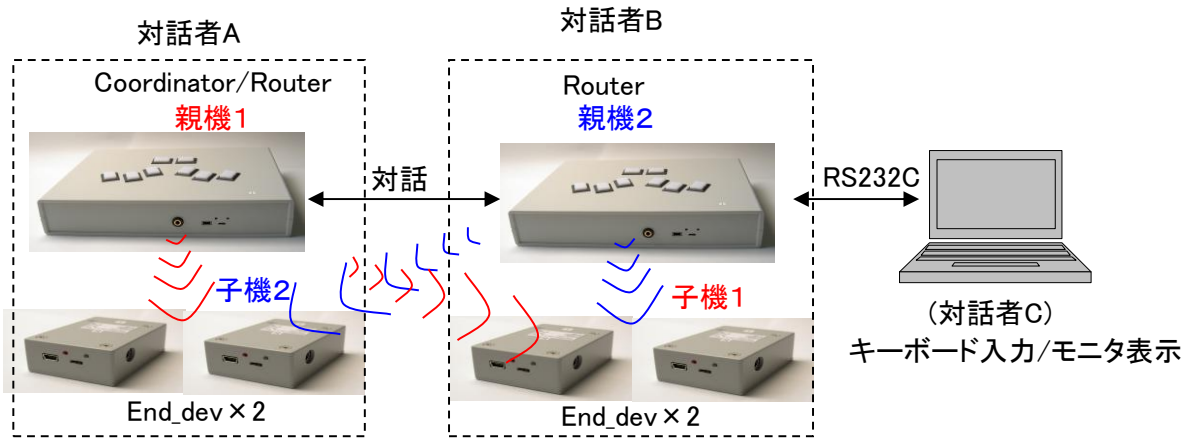
２－１） ２式を用いた相互対話システム1(相互に独立)



対話者Aは親機１より６点点字入力情報を無線通信で送信し、対話者Bに子機１側で
受信した情報を体表点字で伝える。
対話者Bは親機２より６点点字入力情報を無線通信で送信し、対話者Aに子機２側で
受信した情報を体表点字で伝える。

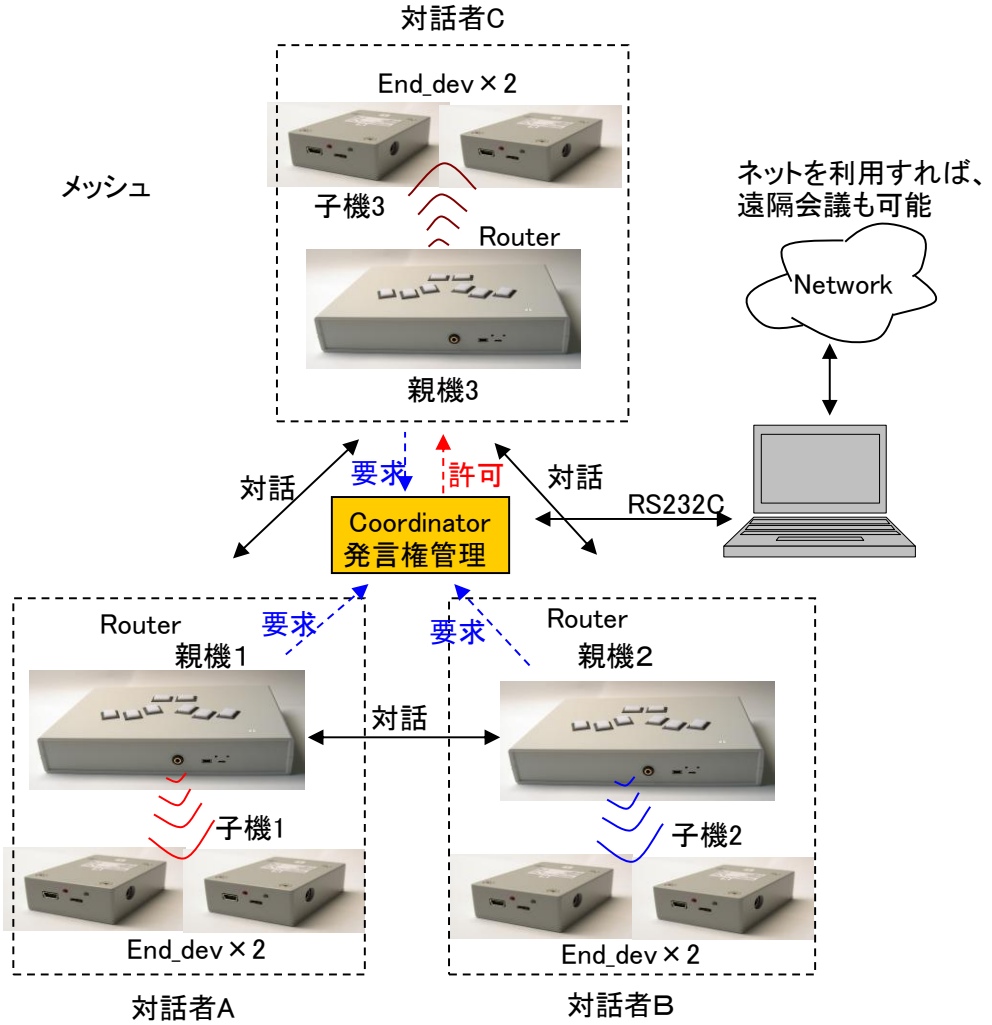
親機、子機ともにはRS-232C経由でPCなどの外部機器と接続可能

２－２） ２式を用いた相互対話システム2(相互に共用)



受信時に相手先からの送信元アドレスで判断
但し、通信する相手先アドレスが認識できていれば、相互にマルチキャスト送受信可能

3） グループ対話（3人～10人程度）



受信時に相手先からの送信元アドレスで判断

但し、通信する相手先アドレスが認識できていれば、相互にマルチキャスト送受信可能

コーディネータが発言権を管理する
　発言権の要求、発言権の取得（許可）、発言権の放棄